九州大学
九州大学広報室
812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1
TEL:092-642-2106 FAX:092-642-2113
MAIL:koho@jimu.kyushu-u.ac.jp
URL:http://www.kyushu-u.ac.jp

PRESS RELEASE（2008/09/02）

九州大学農学部附属演習林と篠栗町で「篠栗九大の森」（仮称）の整備事業を推進

概　要

九州大学農学部附属演習林（演習林長　白石　進）と篠栗町（町長　三浦　正）は、福岡演習林の一画 17ha を九州大学と篠栗町が共同で管理しながら近隣住民の利用に供することについて協議してきましたが、このほど森林整備と共同管理に関する覚書を締結し、「篠栗九大の森」（仮称）の整備事業を推進することに合意しました。

整備事業の開始にあたり、下記の日時に、開かれた大学の東の拠点としての「篠栗九大の森」（仮称）の将来構想についてご報告いたします。皆様にはご多忙中誠に恐縮ではございますが、ぜひご出席賜りたくご案内申し上げます。

１．開催日時　平成２０年９月５日(金) １２時４５分～
２．開催場所　九州大学事務局第１会議室（箱崎キャンパス　事務局第一庁舎２階）
３．出 席 者　（篠栗町）　町　長　三浦　正
（九州大学）　総　長　梶山　千里
附属演習林長　白石　進
福岡演習林長　薛　孝夫

■背　景

「教育」、「研究」、「社会貢献」、「国際貢献」を主要な活動分野と定めている九州大学では、社会に対して大学における教育研究の成果を地域社会にフィードバッグするとともに生涯学習の機会を提供することが求められています。また、農学部の中期目標では、附属演習林の有効利用を図ることが挙げられています。

一方、篠栗町は町内の森林の活用を目指しており、「森林セラピー基地」の認定を進めるなど、町民の健康と関連した森林利用に高い関心を持っております。

福岡演習林では、地元自治体との円滑な意思疎通を図るため、定期的に協議会を開催していますが、地元からは「演習林の開放」が要望されていました。

■内　容

福岡演習林は、篠栗町と久山町にまたがって飛び地状に約 480ha の森林を有していますが、このうち、市街地近くに位置し、蒲田池という溜め池を取り囲む丘陵状の二次林 17ha を対象に、林内の切り透かしなどの森林整備を行うとともに遊歩道約 2km を開設し、樹木名板や解説板を設置して、自然とのふれあいや環境教育に利用できる森林レクリエーション拠点を作ります。

福岡演習林は、大都市に極めて近い場所に豊かな自然環境を有する点で、全国の大学演習林の中でも特異な存在となっています。この構想は、福岡演習林の一画を篠栗町と共同で管理しながら市民に開放することをめざしたもので、大学が演習林の資源と技術を生かした森林整備を行い、篠栗町がこれに呼応した施設整備と安全管理を行います。

【お問い合せ】
○九州大学　福岡演習林長　薛（せつ）　孝夫
電話：０９２－９４８－３１０８
携帯：０９０－２５８２－９３０８
FAX：０９２－９４８－３１２７
○篠栗町　産業観光課長　因幡　耕三
電話：０９２－９４７－１１１１
FAX：０９２－９４７－７９７７

「篠栗九大の森」（仮称）整備構想

地域との連携のもと
開かれた大学の東の拠点をめざして！

演習林から蒲田池を望む

事業の目的

九州大学福岡演習林は、大都市に極めて近い場所に豊かな自然環境を有する点で、全国の大学演習林の中でも特異な存在となっている。本事業は、福岡演習林の一画を篠栗町と共同で管理しながら市民に開放することをめざしたもので、大学が演習林の資源と技術を生かした森林整備を行い、篠栗町がこれに呼応した施設整備を行うこととしている。これらが実現し、大学が場とソフトを提供し地域が管理に協力しながら適切に運用されれば、大学に求められているミッションを、以下のような点でさらに強化することができる。

1. 市民の生涯学習の場や、地域の子供たちが自然体験活動を展開する場の提供
2. 演習林が有する知識と技術を生かした地域貢献
3. 本学学生が、豊かな自然観を養う場としての活用
4. 本学院生、学生による、フィールド科学教育の実践

事業の概要

環境学習や自然体験活動の場となる「篠栗九大の森」（仮称）を創設するために、蒲田池周辺の二次林約17haを対象に、除伐、林床整理などの森林整備と、作業歩道（将来の遊歩道）約2kmの開設を行う。

中期目標との整合性

九州大学の中期目標の1つに「社会との連携」が挙げられ、社会に対して大学における教育研究の成果を地域社会にフィードバッグするとともに生涯学習の機会を提供することが求められている。また、農学部の中期目標では、附属演習林の有効利用を図ることが挙げられている。

事業の必要性・緊急性

演習林では、地元自治体との円滑な意思疎通を図るため、定期的に協議会を開催しているが、地元からは「演習林の開放」が常に要望されてきた。特にここ数年は自治体自身も開放に向けた一定の役割を担うことを表明しており、共同管理の気運が高まっている。

「篠栗九大の森」（仮称）

九州大学

環境学習、自然とのふれあいの場としての森林整備

ハード事業
- 除間伐、林床整理
- 遊歩道の開設
- 解説板、樹木名板の設置

ソフト事業
- フィールドを使った公開講座、観察会等の充実
- 地域住民との共同によるフィールドの管理
- 院生、学生による環境教育の実践

篠栗町

利用のための施設整備

- 駐車場整備
- あずまや、展望台等の整備
- フェンスの設置

地元自治会

利用に関わる管理

- 安全管理
- 保安管理

開かれた大学の東の拠点

伊都キャンパスでは、生物多様性保全ゾーンを中心に、市民に自然とのふれあいの場を提供する方向に進んでいる。本構想による「篠栗九大の森」（仮称）は、開かれた大学をめざす九州大学の「東の拠点」と位置づけられるものである。

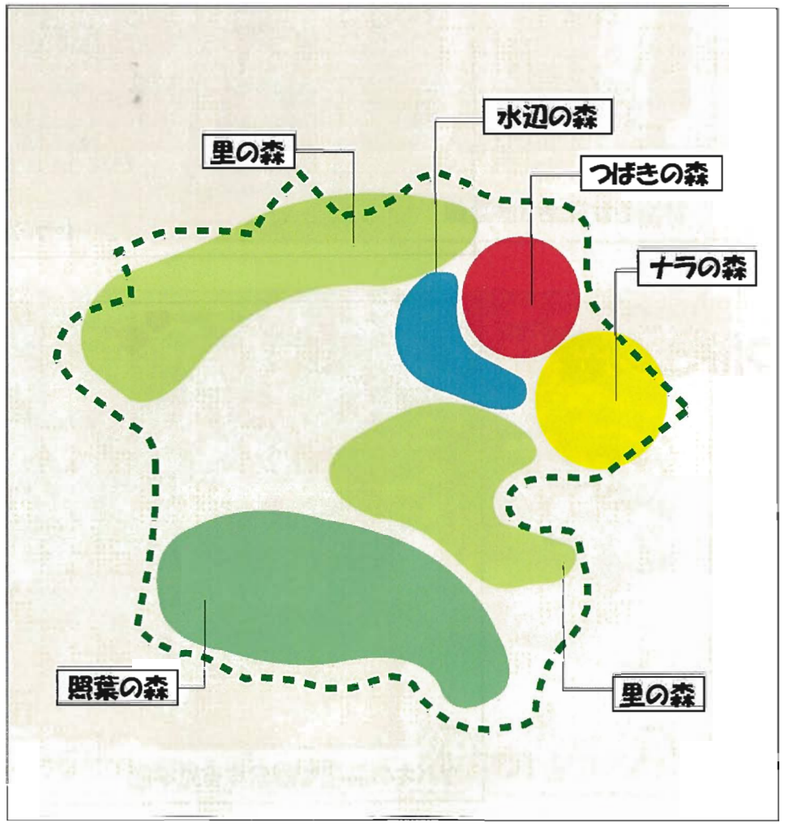
「篠栗九大の森」（仮称）整備構想図

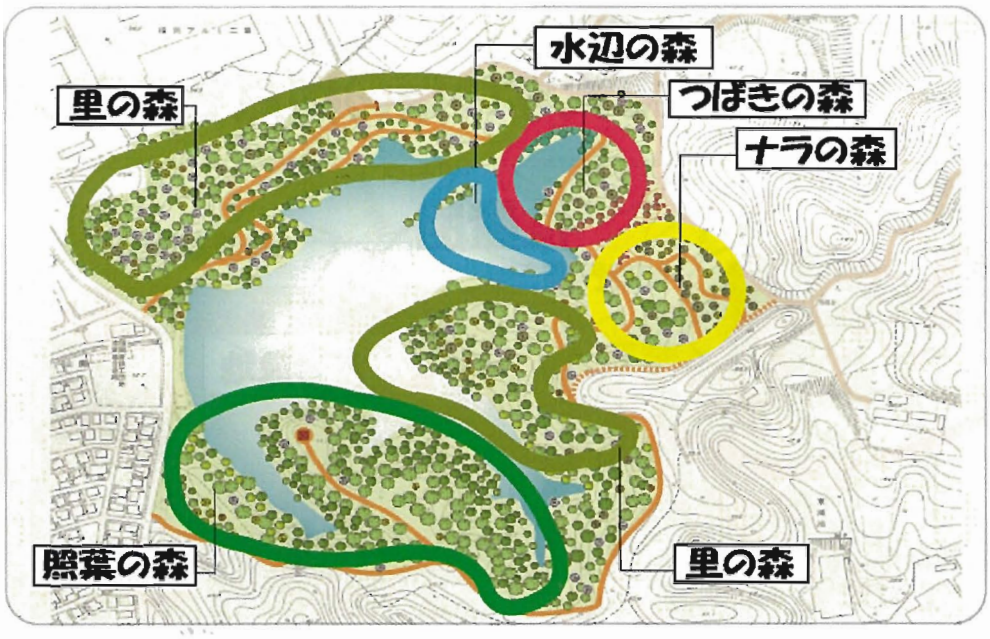
地域との連携のもと
開かれた大学の東の拠点をめざして！

駐車場整備
西門移設
フェンス設置
森林整備
（除伐・整理伐、林床整理）
作業歩道整備
森林整備
（除伐・整理伐、林床整理）
あずまや整備
蒲田池
展望台整備
フェンス設置
森林整備
（除伐・整理伐、林床整理）
フェンス設置
0　100m
1:2,500

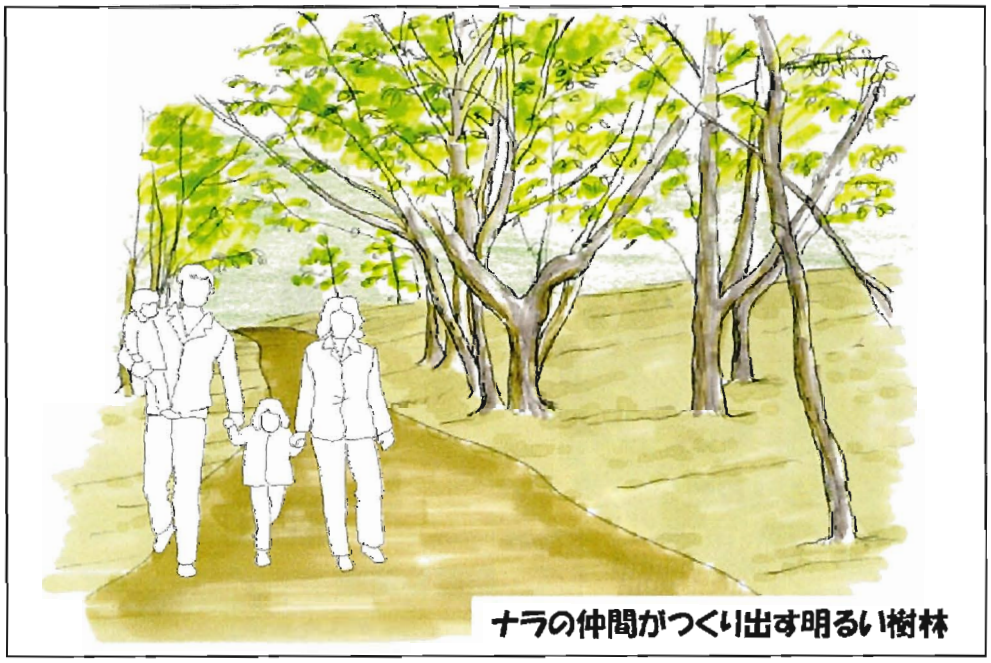
位置図

ゾーニング図





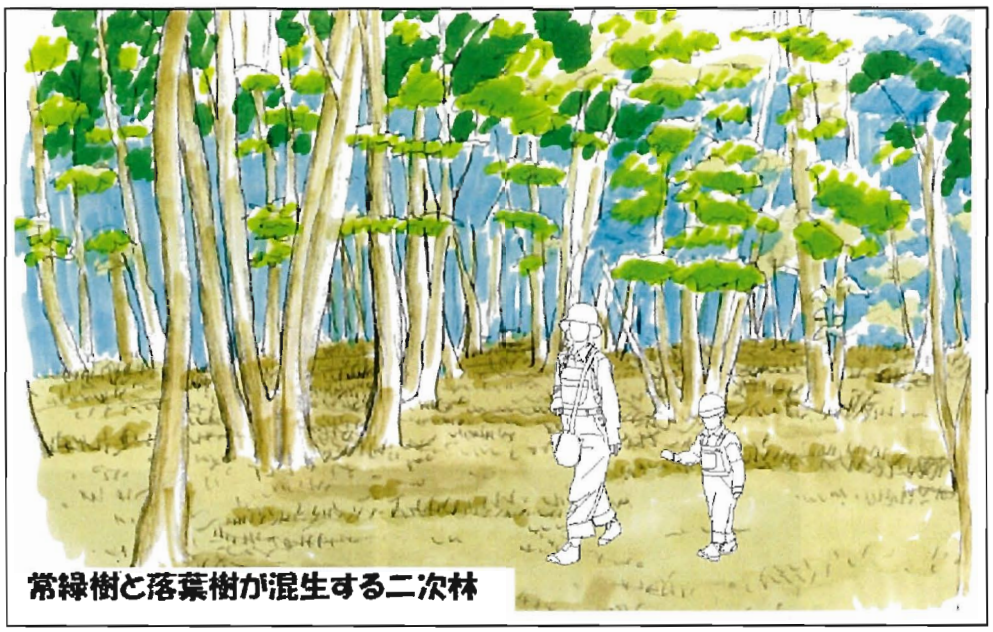
ナラの森


ナラの仲間がつくり出す明るい樹林

つばきの森

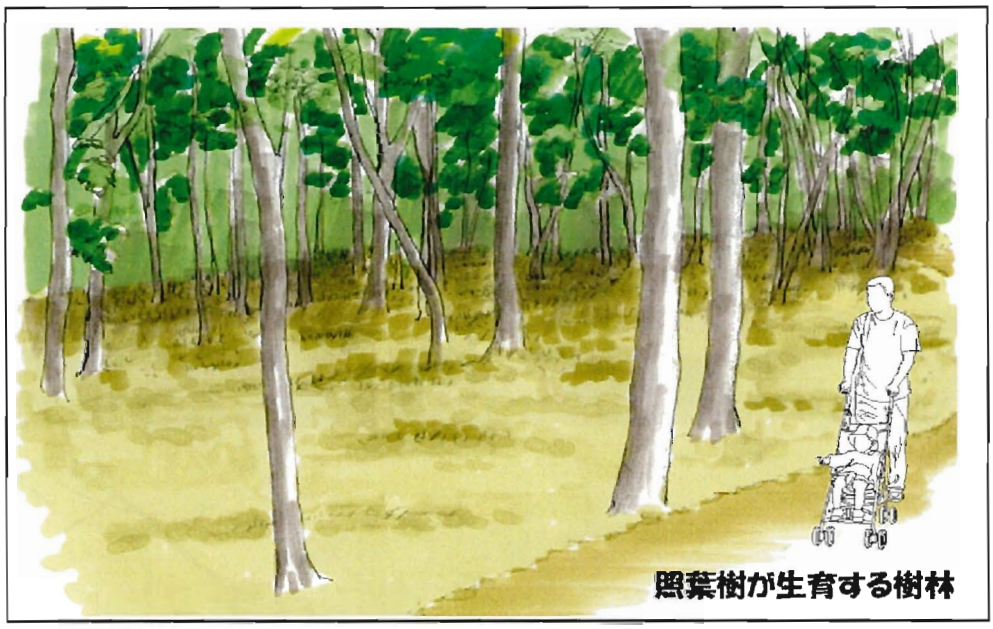
ツバキの品種を展示する見本園

里の森



常緑樹と落葉樹が混生する二次林

照葉の森



照葉樹が生育する樹林

水辺の森

ラクウショウなどが生育する水辺の植物群落